

●編集委員

東浩紀（あずま・ひろき）

一九七一年生。東京工業大学世界文明センター特任教授。専攻は哲学、表象文化論。著書に『存在論的・郵便的』（新潮社）、『郵便的不安たちⅡ』（朝日文庫）、『動物化するポストモダン』『ゲーム的リアリズムの誕生』（以上、講談社現代新書）、『情報環境論集』（講談社BOX）、『自由を考える』（共著）、『東京から考える』北田暁大との共著、ともにNHKブックス）など。

北田暁大（きただ・あきひろ）

一九七一年生。東京大学大学院情報学環准教授。専攻は理論社会学、メディア史。著書に『広告の誕生』（岩波現代文庫）、『広告都市・東京（廣済堂フライブラー）、『責任と正義』（勁草書房）、『意味』への抗い（せりか書房）、『嗤う日本の「ナシヨナリズム」』（NHKブックス）、『限界の思考』（共著、双風舎）、『歴史の（はじまり）』（共著、左右社）など。

●執筆者

浅田彰（あさだ・あきら）

一九五七年生。京都造形芸術大学大学院長。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。専攻は経済学、社会思想史。著書に『構造と力』（勁草書房）、『逃走論』（ちくま文庫）、『ヘルメスの音楽』（ちくま学芸文庫）など。

安藤馨（あんどう・かおる）

一九八二年生。東京大学大学院法学政治学研究科特任研究員。専攻は法哲学。著書『統治と功利』（勁草書房）では、功利主義の吟味から今日のアーキテクチャ設計の条件を示し、大きな反響を呼ぶ。論文に「あなたは「生の計算」ができるか?」（『RATIO』第六号、講談社）など。

磯崎新（いそざき・あらた）

一九三一年生。建築家。作品に、大分県立中央図書館（一九六七、現アートプラザ）、群馬県立近代美術館（一九七四）、

ロサンゼルス現代美術館（一九八七）、トリノ・パラホッケー（二〇〇六）、北京中央美術学院美術館（二〇〇八）、深圳文化中心（二〇〇八）など。著書に『空間へ』建築の解体（鹿島出版会）、『建築における「日本的なもの」』（新潮社）、『磯崎新的訪談@韓日』（インタビュー集、新建築社）など。

宇野常寛（うの・つねひろ）

一九七八年生。批評家。企画ユニット『第二次惑星開発委員会』主宰。批評誌『PLANTS』編集長。戦後文学からコミュニティ論まで、幅広い評論活動を展開する。著書に『ゼロ年代の想像力』（早川書房）、『母性のデイズトピア』（新潮）『教室の中のリアリズム』（小説トリッパー）など。

円城塔（えんじょう・とつ）

一九七二年生。小説家。東北大学理学部物理学科卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。二〇〇七年、『オプ・ザ・ベースボール』で第一〇四回文学界新人賞受賞、同作品で第一三七回芥

川賞候補となる。著書に『Self-Reference ENGIN』、『Boy's Surface』(早川書房)、『オブ・ザ・ベースボール』(文藝春秋)など。

河野至恩 (こうの・しおん)

一九七二年生。二〇〇三年、プリンストン大学大学院比較文学部博士課程修了。上智大学国際教養学部講師。専門は比較文学、日本近代文学。論文に『The Rhetoric of Annotation in Mori Ogai's Historical Fiction and Shiden Biographies』(Journal of Japanese Studies, 32:2)など。主な訳書に『Hitoki Azuma, Otaku: Japan's Database Animals』(University of Minnesota Press)、アルバート・ウエント『自由の樹のオオコウモリ』(日本経済新聞社)など。

鈴木謙介 (すずき・けんすけ)

一九七六年生。関西学院大学社会学部助教、国際大学GLOCOM研究員。専攻は理論社会学。TBSラジオ「文化系トークラジオ」[ed]メイン・パーソナリティなど。著書に『ウェブ社会の思想』(NHKブックス)、『サブカル・ニッポ

ンの新自由主義』(ちくま新書)など。

濱野智史 (はまの・さとし)

一九八〇年生。株式会社日本技芸リサーチャー。専攻は情報社会学。国際大学GLOCOM研究員を経て現職。著書に『アーキテクチャの生態系』(NTT出版)ほか。論文に『ニコニコ動画の生成力』(『思想地図』vol.2)など。

原武史 (はら・たけし)

一九六二年生。明治学院大学国際学部教授、同付属研究所所長。専攻は日本政治思想史。著書に、『民都』大阪対「帝都」(東京)『講談社選書メチエ』、『大正天皇』(朝日選書)、『(出雲)』という思想』(講談社学術文庫)、『可視化された帝国』(みすず書房)、『皇居前広場』(ちくま学芸文庫)、『滝山コミュニケーション一九七四』(講談社)、『昭和天皇』(岩波新書)ほか。

福嶋亮大 (ふくしま・りょうた)

一九八一年生。文芸批評家、日本学術振

興会特別研究員。『ユリイカ』にて「神話社会学」を連載。論文に「物語の見る夢」(『思想地図』vol.2)、『自然・批評・折り』(『波状言論』16・18号)、『快樂装置としての身体』(『早稲田文学』1)など。

藤村龍至 (ふじむら・りゅうじ)

一九七六年生。建築家。藤村龍至建築設計事務所主宰。東京理科大学、首都大学東京、日本女子大学非常勤講師。作品に『BUILDING K』(UTSUWA)ほか。『FOUNDBOUT JOURNAL』などのメディア・プロジェクトも積極的に行う。編著に『1995年以後』(エクスナレッジ)。

宮台真司 (みやだい・しんじ)

一九七九年生。社会学者。首都大学東京教授。専攻は理論社会学(社会科学システム理論)。東京大学大学院人文科学研究所博士課程修了(社会学博士)、『幸福論』(共著、NHKブックス)、『14歳からの社会学』(世界文化社)、『日本の難点』(幻冬舎新書)など。